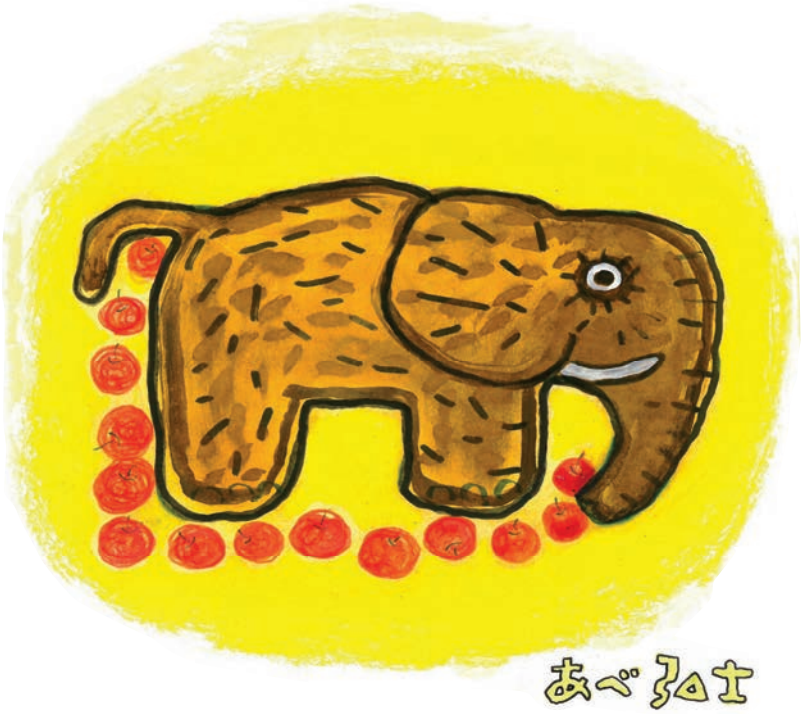
はじめてであう

こころ　育ての　ひみつ

こどももおとなも　えほんでかわる



お子さんのなまえ：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

矢祭町「子ども読書の街」づくり推進委員会
矢祭もったいない図書館

・・・も　く　じ・・・

はじめまして ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
絵本は　こころ育ての　特効薬　　ノンフィクション作家　柳田邦男・・・・・・・・2
読み聞かせは、なぜ必要？ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
読み聞かせ Q&A ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
ガイドブック「こころ 育ての ひみつ」の使い方 ・・・・・・・・・・・・・・・・5
読み聞かせをはじめるには ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
絵本は買うの？借りるの？・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
えほんのしょうかい
　0 歳・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8・9
　1 歳・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10・11
　2 歳・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12・13
　3 歳～4 歳・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14・15
　5 歳～6 歳・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16・17・18・19
手づくり絵本コンクール作品集・・ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20・21
図書館利用ガイド ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22・23
読書通帳の使い方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
ブックスタートのはじまり・参考文献 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
絵本といっしょに「幸せの記憶」を　　JPIC 読書アドバイザー　児玉ひろ美 ・・・26
表紙の絵に寄せて　　絵本作家　あべ弘士・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
読み聞かせの記録 1・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
読み聞かせの記録 2・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29

表紙のことば

　はじめて出会う絵本には「子育てのひみつ」が沢山つまっています。絵本との出会いにより、子育ての大切なポイントに気づいて頂ければとの思いから、柳田邦男先生、児玉ひろ美先生のからのご支援により名づけました。

表紙の絵

　絵本作家「あべ弘士先生」からの、矢祭もったいない図書館の開館１０周年記念の応援作品です。ぞうさんのそばには、あかいまあるい…「なんでしょうか？」想像をふらませてみてください。たのしい絵本との出会いを応援してくれています。

はじめまして

赤ちゃんと絵本の出会いをはじめませんか。
本との出会いは、赤ちゃんとおとうさん・おかあさんが絵本をとおして、ゆっくりとふれあうひとときをもつ、きっかけをつくります。絵本は、赤ちゃんに優しく語りかけ、ともに過ごす時間をごく自然につくりだします。

赤ちゃんを、おひざに抱っこしたり、おやすみ前に一緒に寝転んだりして、おとうさん・おかあさんと絵本を読むことで、赤ちゃんとの楽しいひとときをわかち合うことができます。

赤ちゃんと一緒に、絵本を開いて楽しんでください。読むことに集中するのではなく、赤ちゃんが本当に楽しいと感じているか、赤ちゃんの表情も見てください。短い時間で心のスキンシップがとれ、わずかな時間の絵本タイムが親子のきずなを深めます。読み聞かせは、“親子で楽しく過ごす時間をつくりたい”と思っている親御さんに、おすすめしたいものです。

このガイドブックを、どうぞお役立てください。

乳児６か月健康相談；ボランティアによる絵本の紹介
（紹介絵本「だるまさんが」かがくいひろし：作　ブロンズ社）

絵本は　こころ育ての　特効薬

今、なぜ、子育てに絵本の読み聞かせが大切だと強調されるのでしょうか。
その主な理由は、２つあります。
１つは、両親とも仕事で忙しく、子どもと接する時間が、昔に比べきわめて少なくなっていることです。しかも、少子化の傾向で、きょうだいも少ないため、子ども同士の会話も少なくなっています。
もう１つは、生活時間をテレビ、スマホ、パソコンなどの情報機器が圧倒的に支配するようになり、人間同士の生身の接触がきわめて少なくなっていることです。

子どもにしろ、おとなにしろ、きめ細かな感性や他者の微妙なこころの動きを理解する力は、生身の会話やいっしょに何かをすることや、さまざまな物語を読んでの感動体験をとおして身についてくるものです。幼い頃ほど、そういう体験によるこころの発達はめざましいのです。
幼い子への親による読み聞かせは、感情のこもった肉声、親も笑ったり、涙を流したりといった感情の自然な共有、抱っこや添い寝といったスキンシップによる安心感・信頼感などの条件がそろっているので、親子のコミュニケーションの希薄化という現代の子育ての危機を修復する力を持っているのです。最近の医学研究によると、子どもの感性や本質的に大事なことの理解力は、親の想像以上に強いことがわかっています。
ですから、読み聞かせをする親は、子どもの絵本に対する鋭い反応から、自分も感性を取り戻そうとする学びの姿勢が求められているとさえ言えるのです

さあ、矢祭町の親御さんの皆さん、子どもと自分のこころの成長のために、どんなに忙しくても、毎日 20 分以上、読み聞かせをし、毎週休日には子どもと一緒に図書館に絵本を借りに行く習慣を身につけましょう。

ノンフィクション作家　柳田　邦男

読み聞かせは、なぜ必要？

乳幼児期は、脳の発達や感性が養われる一番大切な時期です。人間の知能の半分くらいは 4 歳くらいまでに発達し、残りはだいたい 8 歳くらいまでに形成されるといわれています。

このような重要な時期におとうさん・おかあさんそして、まわりの人たちの語りかけや肌のふれあいなどで、少しずつ言葉や動作を覚え、理解を深め、自分で表現できるようになっていきます。大人との交流の中で言葉を覚えていきますが、親密なやり取りがあれば、さらに急速に進歩をみせてくれます。その仲立ちをしてくれるのが、絵本です。

赤ちゃんと一緒に絵本を楽しみましょう。おとうさん・おかあさんの心地よい、やさしい言葉が発育に大きな栄養となり、絵本をとおした働きかけで、赤ちゃんが笑顔でこたえ読み聞かせを、繰り返すことにより、言葉や、感動を覚え、成長していきます。家族のきずなを深めていく、それが、読み聞かせの魅力です。

子どもが「よんで、よんで」と同じ本を何回も持ってくるのは、絵本が楽しめるようになった証拠です。

読み聞かせは、おとうさん・おかあさんも自分の子ども時代をなつかしく思い出したり、再発見したり、大人にも好奇心やホッとする時間や空間を提供してくれます。

お子さんは、おとうさん・おかあさんの声が「何よりよい」と感じています。

やまつりこども園；ボランティアによる読み聞かせ

読み聞かせ Q&A

Q1　はじめて読むのは、どんな絵本がよいのですか？

A1　赤ちゃんが好む絵本が基本ですが、おとうさん・おかあさんが好きな絵本を読んであげてもよいですよ。

Q2　いつ・どこで・だれが読んだらよいのですか？

A2　おやすみ前やお昼寝前が多いようですが、お散歩中の公園のベンチや病院の待合室など、いつでも、どこでも、だれでも気軽に読んでください。

Q3　読み聞かせの時間が取れないのですが、どうしたらよいですか？

A3　大丈夫ですよ。こども園や図書館などで読み聞かせをしています。
こども園では、保育士さんや先生、ボランティアさんの協力もあり、読み聞かせをしています。絵本にふれる機会は十分あります。図書館でのお話会にも参加してください。

Q４　絵本を見せたら、いやがって泣き出してしまいました。どうしたらよいですか？

A４　無理せずに様子をみましょう。「絵本は楽しい」と感じてくれることが重要です。短い時間でかまいませんので、機嫌のよいタイミングからはじめましょう。

Q５　同じ本を何回も読み聞かせの本に選びますが、どうしてですか？

A５　本が好きになって来たようです。お子さんによっては、同じページを繰り返し読むことをせがんだりします。何回でも満足するまで読んであげましょう。
満足感が得られれば、自然と次の絵本に興味がいきます。

ガイドブック「こころ　育ての　ひみつ」の使い方

～きょうからはじめましょう～

☆ 絵本で子育て

　このガイドブック「こころ　育ての　ひみつ」は、絵本を生活に取り込み、「楽しく子育て」をするためのものです。妊娠・出産・育児のサポートは「母子健康手帳」がありますが「こころ　育ての　ひみつ」もセットでお使いください。

　赤ちゃんと一緒に、おだやかなひとときをすごしましょう。

☆ 使い方

① 「こころ　育ての　ひみつ」を受け取ったら、お子さんのなまえを書きましょう。
② 健診でプレゼント絵本を受け取ったら、赤ちゃんの機嫌の良いタイミングで読みましょう。
③ 読み終わったら、読んだ日、本のタイトル、気づいたことを何でも記録しましょう。
④ 年齢に応じた絵本選びを紹介していますので参考にしてください。
⑤ 絵本は、図書館を活用しましょう。「貸出カード」は、赤ちゃんの名前でも作れます。
⑥ 図書館の「お話会」の情報をチェックして、赤ちゃんとお出かけください。

☆読み聞かせをはじめるには…

読み聞かせをする準備は？　何を用意すればよいの？

○ 絵本を用意する。

「読んではいけない絵本」なんてありません。
お家にある絵本や図書館で借りた絵本、何でも大丈夫です。
悩んだときは、おとうさん・おかあさんの好きな絵本から始めてみるとよいですよ。

○ 親子で楽しむ。

絵本を用意したら、あとは親子で楽しみます。
聞いていないように見えても大丈夫です。絵本から「これ　なんだろうね？」などと、オモチャで遊んでいる時と同じように話かけながらでも、絵本を絵だけで楽しんでもよいのです。
おとうさん・おかあさんが楽しそうにしていると、お子さんも興味を持ちますよ！
徐々に慣れてきたら、ゆっくりとお子さんと楽しんで、読みましょう。
お子さんも、おとうさん・おかあさんの顔が見えると安心します。

はじめての絵本

はじめて読みきかせした絵本のタイトルやお子さんの様子を記録しましょう。
絵本のタイトル 読んだ日　　年　　月　　日
お子さんの様子

☆絵本は、買うの？　借りるの？

絵本は、図書館から借りて、お気に入りの本ができたら、購入してもよいでしょう。まずは、図書館で本を借りてみては？

○ 図書館に行くと楽しいことがたくさんあります。

同じ年齢のお友達と出会うことができたり、
季節に合ったお薦めの絵本をたくさん紹介してくれたりします。
お話会の日程も確認して、読み聞かせに参加しましょう！

本を借りるのに準備するものは？

図書館利用カード　⇒　持っていない方は、住所の確認ができるものが必要です。
借りた絵本を入れるカバン　⇒　忘れないで、持って来てください。

☆絵本は家のなかで、どのように置いたらいいの…

お子さんが絵本を取りやすくしたり、上手に絵本を収納したりするには？

おもちゃコーナーの一角や、家族の集まるリビングなどに、すぐに取り出せるように、読書専用のスペースを確保します。
小さな子どもさんには、表紙がみえるように、カゴなどに入れてみやすく取りやすくします。
お子さんが、いつでも手の届くところに絵本を用意します。

えほんのしょうかい

0歳

赤ちゃんと心を通わせるひとときをすごします。

絵本を開くことで、赤ちゃんと楽しい時間を分かち合います。

絵本選びのポイント

赤ちゃんは、言葉の意味はわからなくても、くり返しのリズムのある絵本が大好きです。また、言葉のひびきやリズムを楽しめる耳をもっています。
絵本なんてまだ早いと思っていませんか？
絵本を開くことで、赤ちゃんとたのしい時間を分かち合えるのです。

赤ちゃんとの仲介役は、絵本です。
身近にあるものや動物・自然などを題材にした絵本を、赤ちゃんとお話するように、読む絵本があるとよいでしょう。

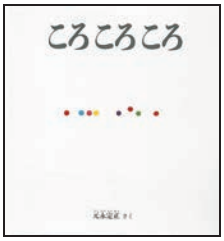
絵本は、赤ちゃんにとっては、遊びの道具「おもちゃ」です。厚めのボール紙が使われて、角は、丸くカットされ、中には、なめたり、かじったりしても安全な染料を使用しているものもあります。

図書館には「除菌ボックス」もありますから、心配な時は除菌をして、お貸しできます。

おとうさん・おかあさんと笑ったり、歌ったり、おはなしをして、絵本との出会いを楽しみましょう。

くり返しやリズムを楽しむ絵本

「じゃあじゃあ びりびり」
まついのりこ：作／絵
偕成社



「ころころころ」
元永定正：作
福音館書店

「ととけっこう よがあけた」
こばやしえみこ：案
ましませつこ：絵
こぐま社

赤ちゃんと心を通わせる絵本

「いない いない ばあ」
松谷みよ子：文
瀬川康男：絵
童心社

「かお かお どんなかお」
柳原良平：作
こぐま社

「くっついた」
三浦太郎：作／絵
こぐま社

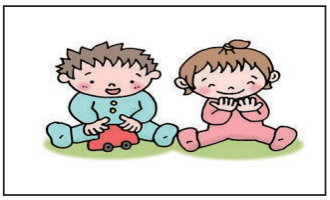
お話会で人気のある絵本

「がたんごとん　がたんごとん」
安西水丸：作
福音館書店

「だるまさんが」
かがくいひろし：作
ブロンズ社

「おててがでたよ」
林　明子：作
福音館書店

1歳



絵本との付き合い方は、家庭によってさまざまです。

絵本選びのポイント

一緒に歌ったり、手遊びをしたりして、体を動かすことができるようになり、話しかけにより、気持ちを言葉で表そうとします。

わかる言葉が少しずつ増えてきて、絵本の言葉にも興味を示すようになってきます。「ニャーニャー」、「ごろごろ」、「にょろにょろ」など、くり返しのことばや場面のあるお話にも感心を持つようになります。

何にでも興味を示し「これなあに？」と指をさしたり、「読んで」と絵本を持ってきたりします。絵本に興味を持ち始め、おとうさん・おかあさんに相手にして欲しい合図です。好きな絵本も表紙の絵でわかるようになり、何度でも持ってきます。

好きな絵本をくり返し読むことで、新しい言葉も少しずつおぼえます。一つ一つに答えて読むことにより、お子さんの心におとうさん・おかあさんへの信頼感も育っていきます。

基本的な生活習慣を身につけていく時期でもあるので、あいさつしたり、くつをはいたりする生活絵本を読むのもよいでしょう。

絵本は、お子さんの目につきやすい場所に、表紙が見えるように置くことで、取りやすくします。
おとうさん・おかあさんが大事に扱うと、お子さんも大事にあつかいます。

「くだもの」
平山和子：作
福音館書店

「くつくつあるけ」
林　明子：作
福音館書店

「もこもこもこ」
谷川俊太郎：作
元永定正：絵
文研出版

「はらぺこあおむし」
エリック・カール：作/絵
もりひさし：訳
偕成社

「あっぷっぷ」
中川ひろたか：作
村上康成：絵
ひかりのくに

「おつきさまこんばんは」
林　明子：作
福音館書店

「わらべうたであそびましょ！」
さいとうしのぶ：編/絵
のら書店

「どんどこ ももんちゃん」
とよたかずひこ：作
童心社

「おひさま あはは」
前川かずお：作
こぐま社

２歳

赤ちゃんから子どもへと成長していきます。

絵本選びのポイント

はしったり、ジャンプしたりと運動ができるようになり、衣類の着脱も一人でやろうとしたり、生活面でも意欲が育つ時期です。

遊びの中でも、簡単な言葉のやり取りを楽しむことができるようになり、言葉の数も増えていきます。

赤ちゃんから、子どもへ成長していく時期でもあります。家の中から外の世界に興味が広まっていきます。
人や自然とふれあう中で、好奇心の心を育みます。
ハラハラ・ドキドキする絵本やストーリーを楽しむ物語絵本にも興味を示すようになります。

基本的な生活習慣や意欲の育ち、何かを作り出す力を刺激して、応援できる絵本などがよいでしょう。

図書館での絵本選びは、子どもコーナーで自由に絵本に触れ、お子さんに選ばせてください。親と子がふれあうリラックスした時間が楽しめます。
おとうさん・おかあさんが読んであげたい絵本も追加して、借りてもよいですね。
図書館利用ガイドが、Ｐ22 にあります。

「きんぎょがにげた」
五味太郎：作
福音館書店

「たまごのあかちゃん」
神沢利子：文
柳生弦一郎：絵
福音館書店

「おはよう」
中川李枝子：作
山脇百合子：絵
グランまま社

「はけたよ はけたよ」
神沢利子：作
西巻茅子：絵
偕成社

「まるくておいしいよ」
こにしえいこ：作/絵
福音館書店

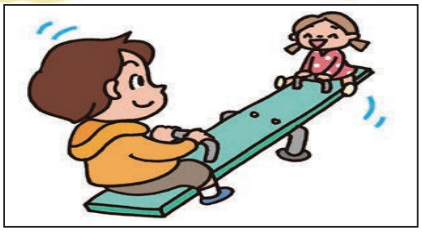
「しろくまちゃんのほっとけーき」
わかやまけん：作
こぐま社

「わにわにのおふろ」
小風さち：文
山口マオ：絵
福音館書店

「のせてのせて」
松谷みよ子：文
東光寺　啓：絵
童心社

「ずかん・じどうしゃ」
山本忠敬：作
福音館書店

３歳～４歳



自立心が育ち、想像力が広がります。

絵本選びのポイント

身近な動物や植物・遊具に興味を持って関わり、考えたり、試したり、工夫して遊ぶことができるようになります。

お話を楽しむことができるので、お話が伝わるように話す工夫をします。

自立心が育つ時期でもあり、知識力も芽生え、周りの人や物事をじっくり観察し、見たことのないもの、不思議なもの、自然なものに興味を示し、「なぜ？」「どうして？」と質問してきます。

友だちとの関わりも増え、友達の気持ちを想像したり、自分の気持ちを言葉を使って伝えるようになります。

耳で聞いた情報や、目で見た情報を合わせて、身近な話題の絵本、繊細に描かれた絵本により、より日常的生活に寄り添い、明るく楽しい絵本を選んでください。

絵本も簡単なストーリーなら楽しめるようになり、登場人物たちの気持ちを想像することで、絵本を楽しむことができるようになります。

おとうさん・おかあさんも、お子さんの興味ある「なぜ？」「どうして？」の質問に、一緒になって向き合ってみてはいかがですか？

「ねないこ だれだ」
せなけいこ：作/絵
福音館書店

「おおきくなるっていうことは」
中川ひろたか：文
村上康成：絵
童心社

「いやだいやだ」
せなけいこ：作/絵
福音館書店

「おやすみなさい おつきさま」
マーガレット・ワイズ・ブラウン：作
クレメント・ハード：絵
せたていじ：訳　評論社

「みんなうんち」
五味太郎：作
福音館書店

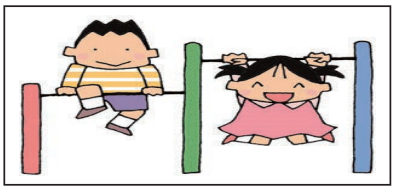
「おふろだいすき」
松岡享子：作
林　明子：絵
福音館書店

「ちいさいおうち」
バージニア・リー・バートン：作/絵
石井桃子：訳
岩波書店

「ぐるんぱのようちえん」
西内ミナミ：作
堀内誠一：絵
福音館書店

「ぐりとぐら」
中川李枝子：作
大村百合子：絵
福音館書店

５歳～6 歳



知識も増えて、

一人一人の個性も豊かになってきます。

“読み聞かせ黄金期“

絵本選びのポイント

身の回りのことは、ほとんど自分で出来るようになってきます。友達との遊びも楽しく、仲間への思いやりの気持ちも育ち、困った時や嫌なことがあった時、どうしたら良いのかを考え、解決しようとする意欲が芽生えてきます。

理解力、想像力も豊かになります。ものの個数もわかるようになり、数への関心も高まり、文字に対する興味も増してきます。自分だけの気持ちではなく、他者の気持ちにも敏感になり、絵本でも登場人物の気持ちや行動に共感するようになります。

この時期は、様々なことを吸収しやすく、読み聞かせ黄金期ともいわれています。

絵本も、不思議な世界や未知の世界、昔話も楽しめます。良い本との出会いは、お子どもさんの好奇心を満たすだけでなく、将来まで続く心の栄養となります。昔話には、昔の人が伝えようとした生きるための知恵が込められています。柔軟なこの時期にたっぷりと読んであげたいです。

科学の絵本は、読むだけでなく、「もっと知りたい。」「やってみたい。」「見てみたい。」と思わせる力があります。

心を動かされた絵本は、子どもさんの心に深く残ります。

絵本は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものです。

子どもさんが大きくなった時、自分で「心に残る一冊の本」を選ばれるようになるとよいですね。

昔話

「かさじぞう」
瀬田貞二：再話
赤羽末吉：画
福音館書店

「かちかち山」
広松由希子：作
あべ弘士：絵
岩崎書店

「ねずみのすもう」
神沢利子：作
赤羽末吉：絵
偕成社

「おおきなかぶ」
A・トルストイ：再話
佐藤忠良：絵
内田莉莎子：訳　福音館書店

「三びきのやぎのがらがらどん」
ノルエーの昔話
マーシャ・ブラウン：絵
瀬田貞二：訳　福音館書店

「おおかみと七ひきのこやぎ」
グリム：作
フェリクス・ホフマン：絵
瀬田貞二：訳　福音館書店

「てぶくろ」ウクライナ民話：作
エウゲーニー・M・ラチョフ：絵
内田莉莎子：訳　福音館書店

「トラのじゅうたんになりたかったトラ」
ジェラルド・ローズ：作/絵
ふしみみさお：訳　岩波書店

「シナの五にんきょうだい」
C・H・ビショップ：作　クルト・ヴィーゼ：絵
川本三郎：訳　瑞雲社

自然

「たんぽぽ」
平山和子：作/絵
北村四郎：監修　福音館書店

「みかんのひみつ」
鈴木伸一：監修　岩間史朗：写真
ひさかたチャイルド

「あさがお」
荒井真紀：作/絵
金の星社

「あしたのてんきは
はれ？くもり？あめ？」
野坂勇作：作/絵
福音館書店

「しずくのぼうけん」
マリア・テルリコフスカ：作
ボフダン・ブテンコ：絵
内田莉莎子：訳　福音館書店

「おかしなゆき ふしぎなこおり」
片平孝：文/絵
ポプラ社

「しもばしら」
細島雅代：写真
伊地知英信：文
岩崎書店

「まほうのコップ」
藤田千枝：原案
川島敏生：写真
長谷川摂子：文　福音館書店

「あめがふるときちょうちょうはどこへ」
M・ゲアリック作　L・ワイスガード：絵
岡部うたこ：訳
金の星社

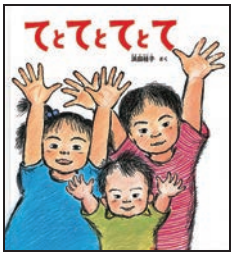
「ぼく、だんごむし」
得田之久：作
たかはしきよし：絵
福音館書店

「むしのかお」
新開　孝：作/写真
ポプラ社

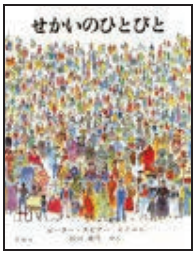
「たべたのはだれ？」
薮内正幸：作/絵
童心社

親子で楽しむ絵本

「だいじょうぶだよ　ゾウさん」
ローレンス・ブルギニョン：作
ヴァレリー・ダール：絵
柳田邦男：訳　文溪堂



「てとてとてとて」
浜田桂子：作/絵
福音館書店



「せかいのひとびと」
ピーター・スピア：作/絵
松川真弓：訳　評論社

「クマよ」
星野道夫：文/写真
福音館書店

「ソリちゃんのチュソク」
イオクベ：作/絵
みせけい：訳らんか社

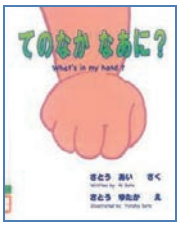
「わゴムはどのくらいのびるかしら？」
マイク・サーラー：文　きしだえりこ：訳
ジェリー・ジョイナー：絵　ほるぷ出版

矢祭もったいない図書館手づくり絵本コンクール作品集
貸し出しもしています。是非手に取って読んでみてください。

第１回　平成 21 年度

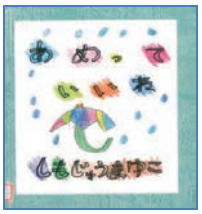
一般の部：最優秀賞「シチューをもらったかえりみち　家族の部：最優秀賞「まほちゃん空をとぶ」

特 別 賞「ずっと　わすれない」　特 別 賞「てのなか　なあに？」



第２回　平成 22 年度

一般の部：最優秀賞「チクチクおばあちゃん」　家族の部：最優秀賞「あめって　いいね」



第３回　平成 23 年度

一般の部：最優秀賞「かげねこ」　特別賞「一本の松」　家族の部：最優秀賞「つながるつながる」

第４回　平成 24 年度

一般の部：最優秀賞「サンタクロースへの手紙」　家族の部：最優秀賞「とかげくんとぼく」

特 別 賞：（金澤昭特別賞）「こしょぐりばんばぁ」

第 5 回　平成 25 年度

一般の部：最優秀賞「シーサイ　ドライナー」　家族の部：最優秀賞「ありがとう　あくとう丸」

第 6 回　平成 26 年度

一般の部：最優秀賞「わらいたくないワライカワセミ」　家族の部：最優秀賞「よくばりじいさんのかみさま」

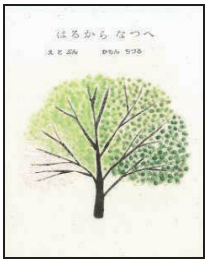
第 7 回　平成 27 年度

一般の部：最優秀賞「たねのきもち」

家族の部：最優秀賞「おじいちゃんのトマト」

第 8 回　平成 28 年度

一般の部：最優秀賞「はるから　なつへ」



家族の部：最優秀賞「おばあちゃんのかさふく」

図書館利用ガイド

☆矢祭もったいない図書館には

全国から寄贈された、たくさんの絵本が、あります。
絵本との出会いには、図書館の利用をおすすめします。
どなたでも、生まれたばかりの赤ちゃんでも、無料で利用ができます。
積極的に利用しましょう。

1　開館時間

午前 9：30～午後 6：00

2　休館日

月 曜 日・・・・・ただし、月曜日が祝日のときには開館
年末年始・・・・・12 月 29 日～1 月 3 日まで

3　利用できる人

町民の方だけでなく、全国の方に貸し出します。

4　利用カードの申請手続き

・利用する方は、「利用者カード申込書」に記入し、「図書貸し出しカード」の交付を受けて下さい。（身分証明書の提示が必要です。）
・図書貸し出しカードを紛失または、住所・氏名等に変更があった時には、「利用カード　再発行・変更届」の手続をしてください。

5　絵本を借りるには…

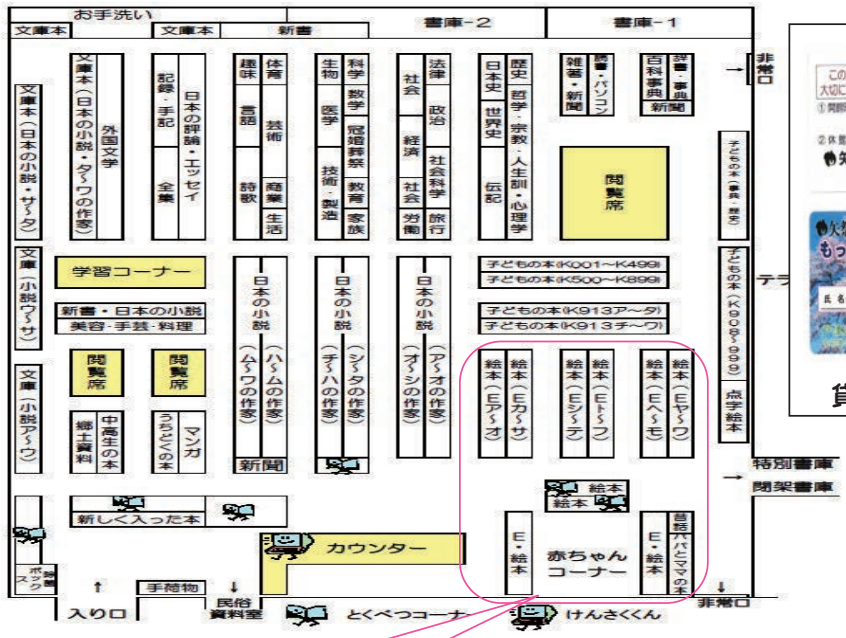
・個人貸出　　一人 5 冊・・・・14 日以内

※家族全員で登録してあると、本をたくさん借りる事ができます。

6　予約、リクエスト

借りたい図書が貸し出されているときに利用します。

館　内　図



赤ちゃんコーナー
絵本コーナー

赤ちゃんの絵本紹介

赤ちゃんコーナー

絵本コーナー

赤ちゃんコーナーや絵本コーナー
にたくさん絵本があるよ
　気に入った絵本を借りてね！
　貸出期間は 2 週間だよ！

☆読書通帳の使い方

図書館から絵本を借りたら、読んだ本を読書通帳に記入し、記録しましょう。
絵本の内容や赤ちゃんの様子を「ひとこと」欄に記入して、次の絵本を借りる参考にしてください。

矢祭もったいない図書館「読書通帳」のつかい方

読み始めた日～読み終えた日：それぞれ日にちを書いておきましょう。
本の背のシール：これを書いておくと、もう一度同じ本を図書館で
さがす時に便利です。
本の名前：作者名を書いても良いですよ。
ひとこと：読み終わった本の内容はどうでしたか？内容を忘れないよう
に書いておくのもいいですよ。

No.	読み始めた日～ 読み終えた日	本の背のシール	本の名前	ひとこと
1	月　日～	019	砂漠でみつけた一冊の絵本	
	月　日まで	ヤ		
2	月　日～	E	みんなのせて	どうぶつがかわいい
	月　日まで	ア		

☆通帳がすべてうまった時、この通帳をなくした時、ひろった時は、図書館までお問い合わせください。（この通帳に期限はありません）
☆通帳がすべてうまると、ゆめ活ポイントが５０ポイントになります。

認定書

あなたは３０冊の本を読み　読書通帳に記録されましたので
ここに認定します
これからもたくさん本を読み　ワクワク　ドキドキする気持ち
を本からもらって心に栄養をつけてすごしてください

平成　　年　　月　　日

矢祭もったいない図書館

読書通帳に 30 冊記入したら図書館に教えてね！

☆ブックスタートのはじまり（その 1）

1992 年英国で発祥　～read books ではなく share books～
キャッチフレーズは「Share book with your baby」
本を読む（read books）のではなく、赤ちゃんと絵本を開く楽しいひとときを分かち合います。(share books)・・・・・・・・・(share；分かち合う)
そのきっかけを、すべての赤ちゃんのもとへ届けようとはじまりました。活動は現在、世界各地で行われています。

☆ブックスタートのはじまり（その 2）

2001 年 4 月、日本でブックスタート開始
日本では、2001 年「子ども読書年」を機にブックスタートが開始されました。同年 11 月に東京都杉並区で 200 の家庭を対象に試験実施され、2001 年 4 月に 12 市町村で本格的な活動がはじまり、その後、全国各地に広がっています。

☆矢祭町の取り組みは？

矢祭町では、2004 年（平成 16 年）5 月より乳児健康相談の際にブックスタート事業を開始しています。現在も 6 か月健康相談の際に絵本の紹介をボランティアの協力により、実施しています。
矢祭もったいない図書館では、平成 28 年度から乳幼児期における読書活動推進事業による 0～5 歳児を対象にセカンドブック事業に取り組んでいます。
平成 29 年 3 月絵本の紹介ガイドブック「はじめてであう　こころ　育ての　ひみつ　こどももおとなも　えほんでかわる」作成
（矢祭もったいない図書館 HP http://books.mottainai-toshokan.com）

＜参考文献＞

『みんな、絵本から』　著者/柳田邦男　撮影/石井麻木　出版社／講談社
『0～5 歳　子どもを育てる「読み聞かせ」実践ガイド』
著者/児玉ひろ美　出版社／小学館
『えほんのせかい　こどものせかい』
著者／松岡享子　発行所／日本エディタースクール出版部
『あかちゃんの本箱　0 歳から 5 歳の絵本』
ドロシイー・バトラー/著　横山真佐子/訳　発行所/ブック・グローブ社
『絵本はともだち』　編集発行　福島県立図書館

絵本といっしょに「幸せの記憶」を

2001 年のブックスタート活動（25 ページ参照）の始まりにより、生まれて間もない我が子に絵本を読んであげる方が増えてきました。
でも、「まだ言葉もわからない赤ちゃんに、どんなふうに読めばよいのかわからない」という声も多く届きます。

読み聞かせは、子どもと一緒にできるたくさんの楽しいことの一つです。
難しいことは何もありません。その日、その時、ご自身が、「わが子に手渡したい、伝えたい」、そう感じた一冊を一緒に分け合えばよいのです。

その思いや願いは、読み手の声を通して、お子さんに伝わります。
幼い頃に受けとった思いや願いは、価値観となって、大人になるまで、お子さんのなかで育ち続けることでしょう。

もちろん、早すぎることも、遅すぎることもありません。
まずは、ご自身が一冊、声に出してご自分のために読んでみましょう。
きっと心が、その良さを受けとることでしょう。
そしてその良さを、どうぞお子さんと一緒に育んでください。
読み聞かせのひとときは、「幸せの記憶」として、心に刻まれることでしょう。

JPIC 読書アドバイザー　児玉ひろ美

このゾウさんの
ウンコは
リンゴです。
だから
いつでも
いつまでも
おいしく
食べます。
絵本も
そうです。
いつでも
いつまでも
楽しく
そばにいます。

表紙の絵に寄せて「絵本作家　あべ弘士先生からのメッセージ」

読み聞かせ記録：1

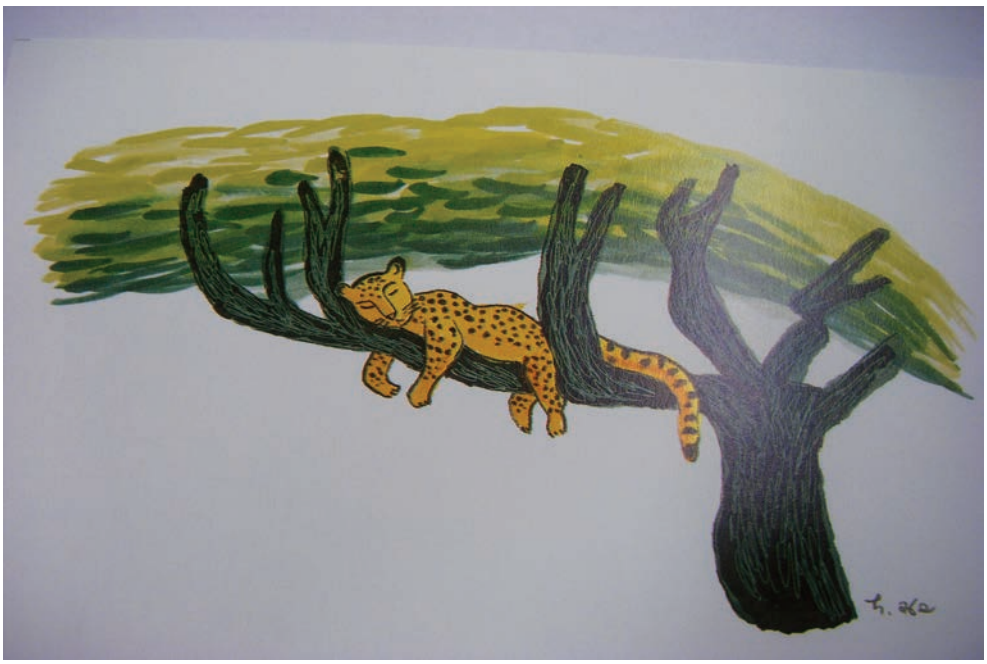
読み聞かせの記録を記入しましょう。
この記録は、お子さんとの大切にしたい成長の記録です。誰がよんでくれたのか、お子さんについて「気づいたこと」を、メモしておきましょう。

読んだ日	絵本のタイトル	気づいたこと

読み聞かせ記録：2

読んだ日	絵本のタイトル	気づいたこと

この記録がいっぱいになったら、「読書通帳」に記入しましょう。
お子さんとの、思い出の記録を記入して、成長したお子さんにプレゼントしてください。



絵本作家　あべ　弘士　先生
2013 年矢祭もったいない図書館手づくり絵本コンクールポストカード作品

2017 年（平成 29 年）3 月作成
発行　矢祭町
監修　ノンフィクション作家　柳 田 邦 男
JPIC 読書アドバイザー　児玉ひろ美
制作　矢祭町「子ども読書の街」づくり推進委員会
矢祭もったいない図書館
福島県東白川郡矢祭町大字東舘字石田 25
TEL　0247-46－4646
http://books.mottainai-toshokan.com